

最近の消費・輸入動向等について

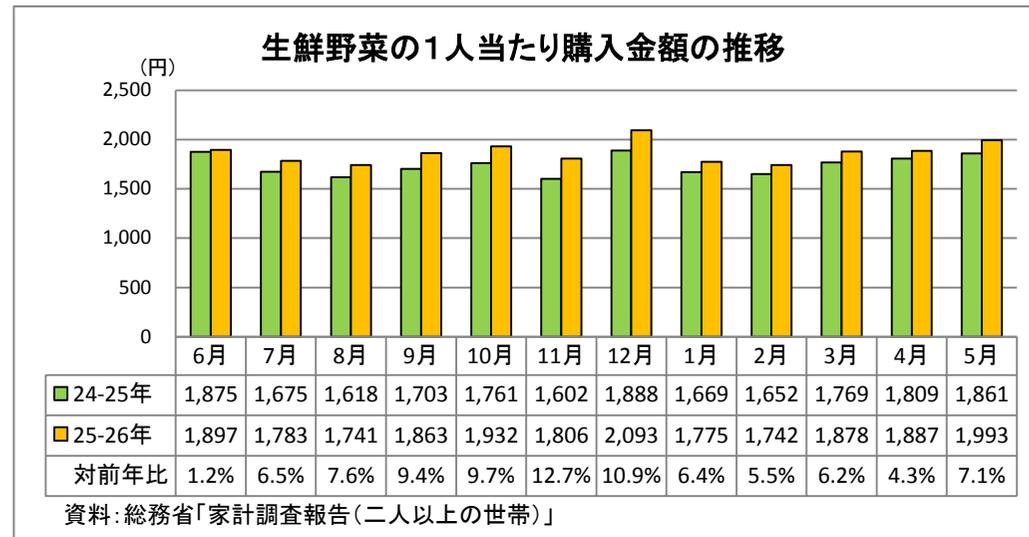
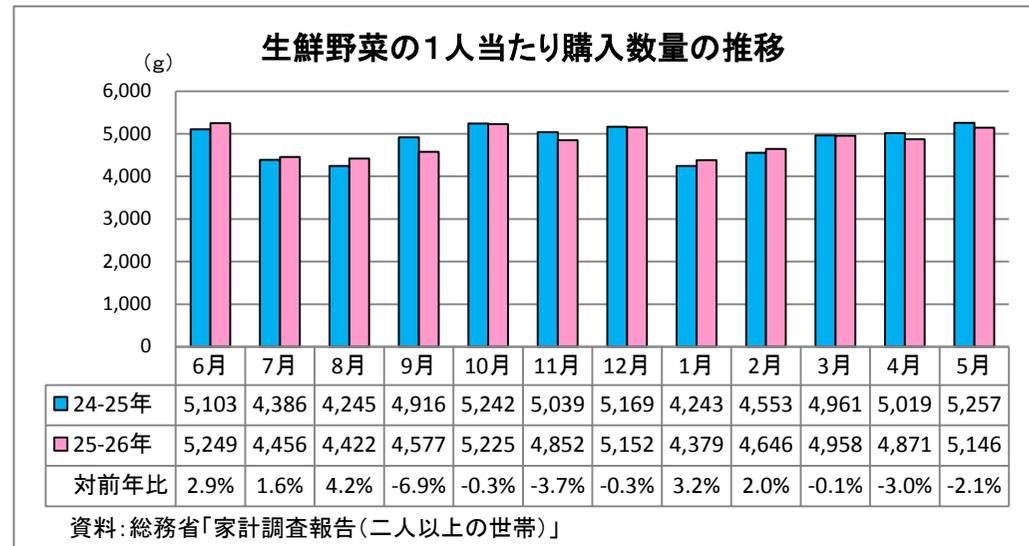
《 目 次 》

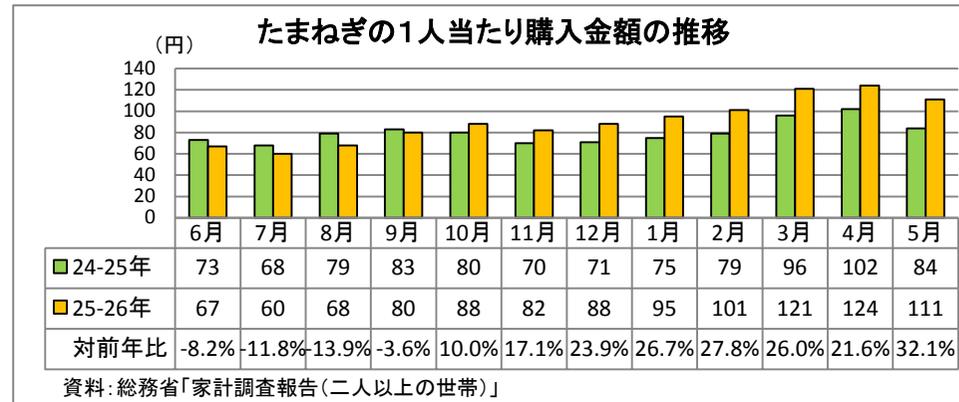
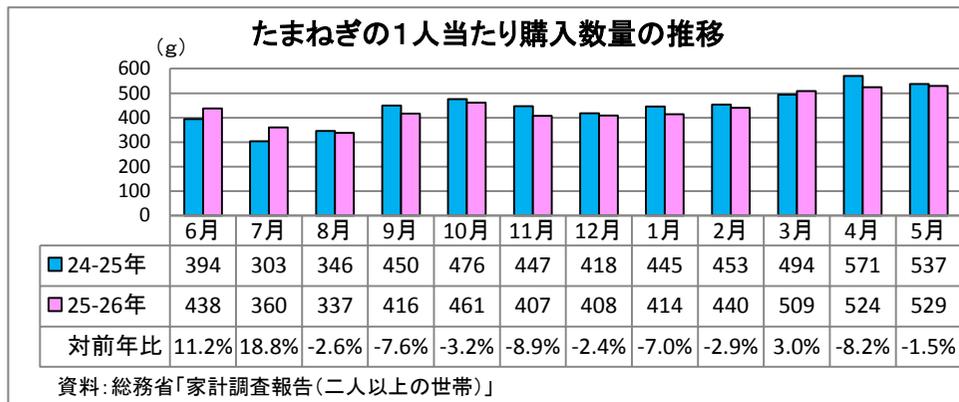
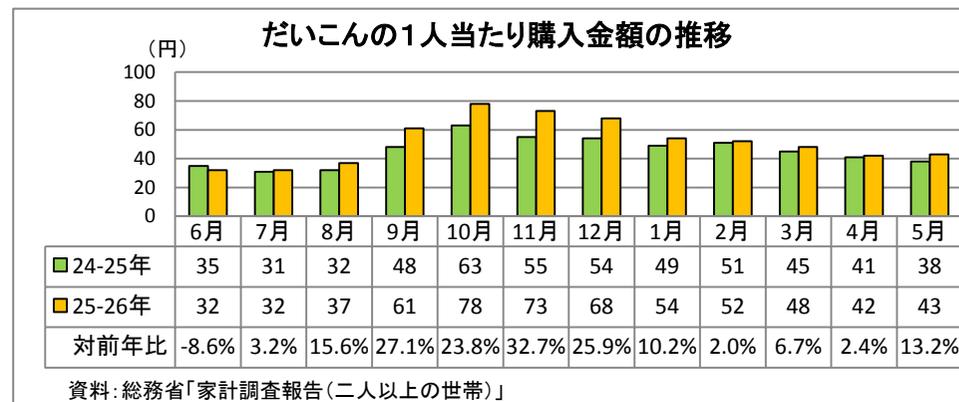
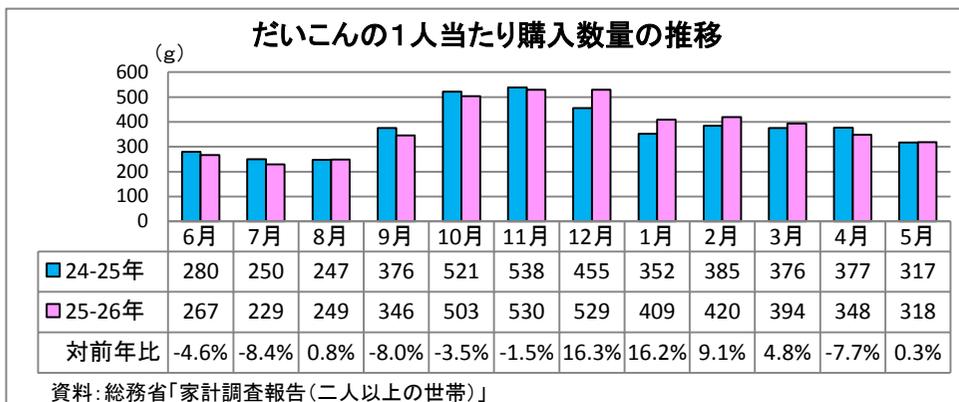
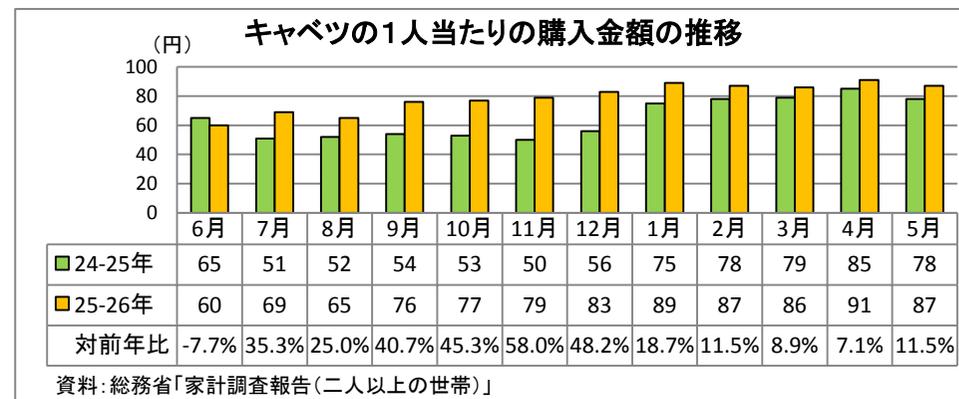
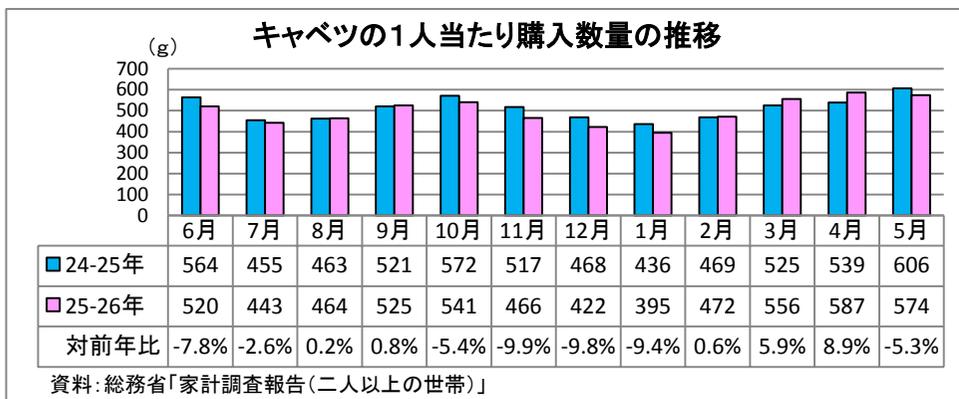
- 1. 家計における購入、支出動向等
 - (1) 生鮮野菜の1人当たり月別購入 P. 1～3
 - (2) 生鮮野菜の1人当たり年間購入 P. 4～7
 - (3) 外食の支出 P. 8
 - (4) 野菜の摂取量 P. 9
- 2. 小売の販売動向
 - (1) チェーンストア P. 10
 - (2) スーパーマーケット P. 11
 - (3) 品目別小売価格 P. 12
- 3. 外食の市場動向 P. 13
- 4. 輸入の動向 P. 14～15
- 5. 夏秋野菜主要品目の主産県別生産・出荷等 P. 16
- 6. 今後の気象予報 P. 17～20

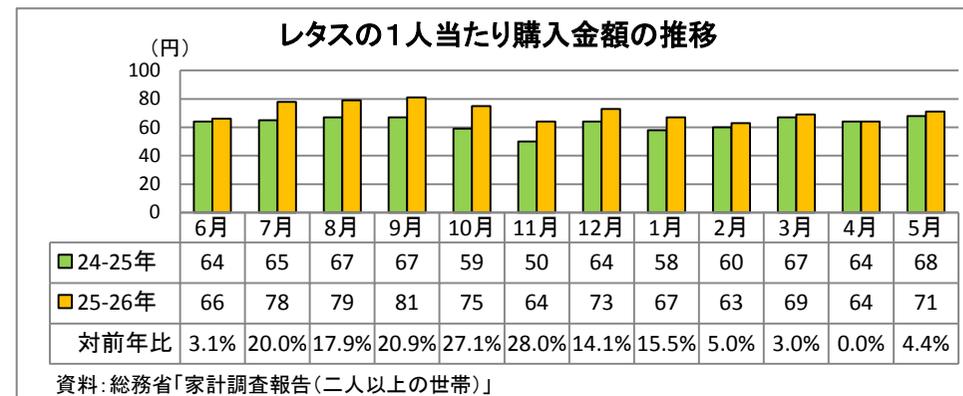
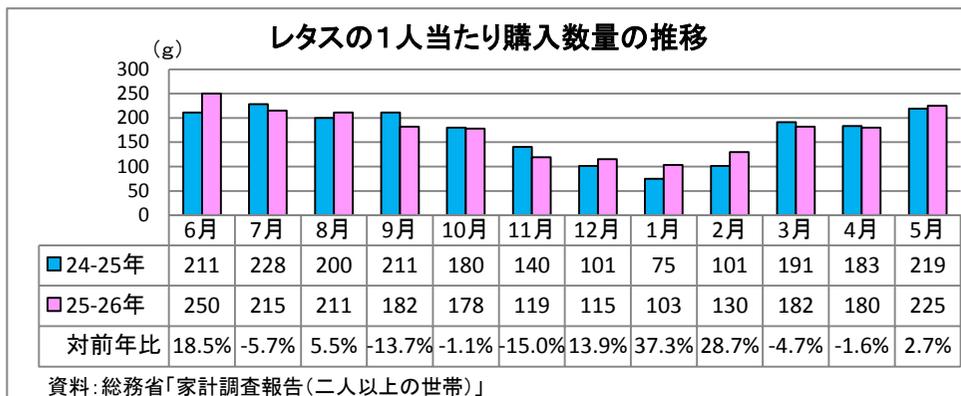
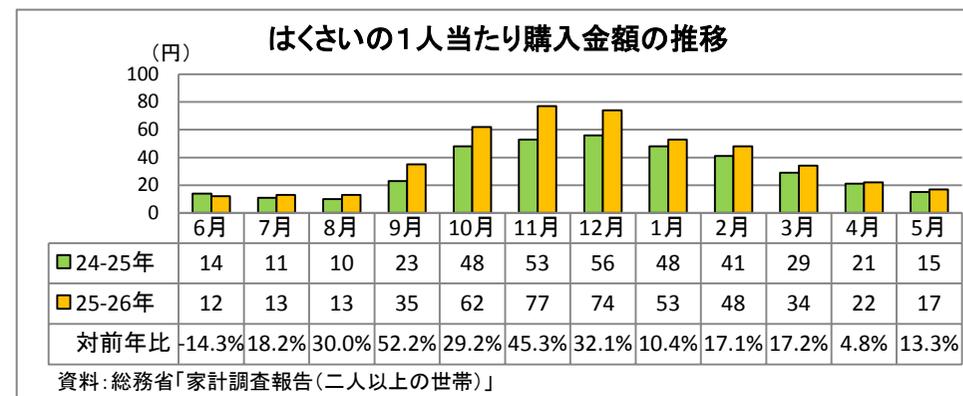
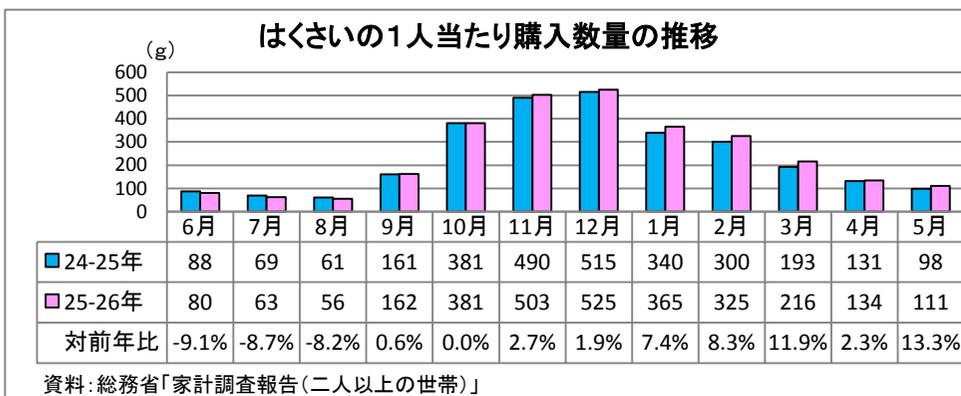
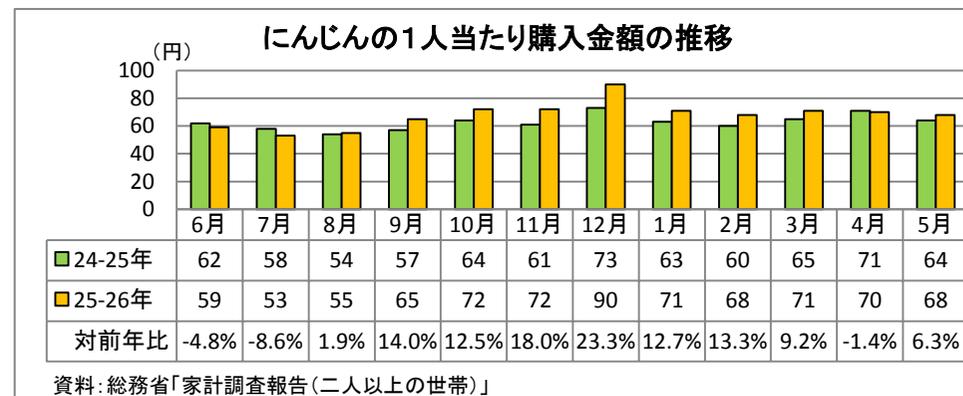
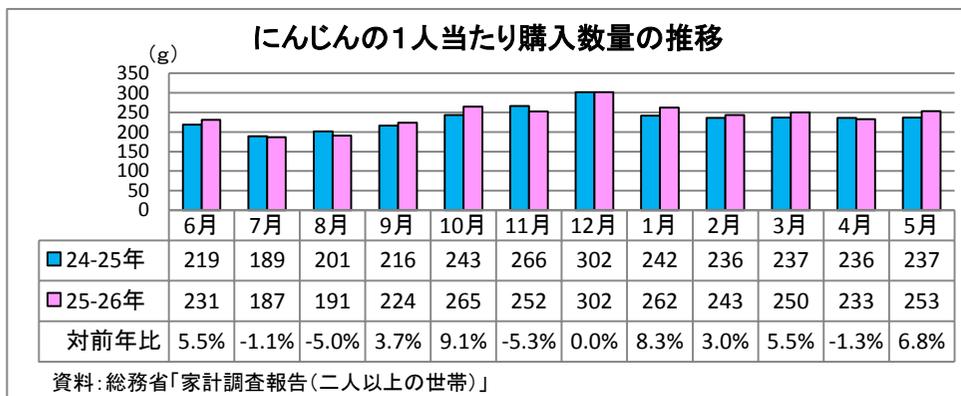
1. 家計における購入、支出動向等

(1) 生鮮野菜の1人当たり月別購入

- 生鮮野菜の購入数量は、6月～8月は前年を上回った。8月は暑さによる食欲不振が増える時期となるが、サラダ関連の品目の購入増加等があったものと見られる。
 - 9月～12月は、夏場の高温や台風等の影響で出荷量が減少し、価格が高値傾向で推移したことから前年を下回った。
 - 3月の生鮮野菜は前年並みとなり、4月からの消費税増税前の駆け込み需要の大きな影響は見られなかった。
-
- 生鮮野菜の購入金額は、9月～12月は購入数量が減少しているものの、価格の上昇等により前年を上回った。
 - 1月は、主にキャベツの高値傾向が続いたこと、たまねぎが北海道産の不作で価格が高値となったことなどから前年を上回った。
 - 2月及び3月は、前年の価格が安かったため、前年の価格を上回った。
 - 4月及び5月は、一部の品目の価格が高値傾向であったことから前年を上回った。また、4月は消費税が増税された時期でもあった。

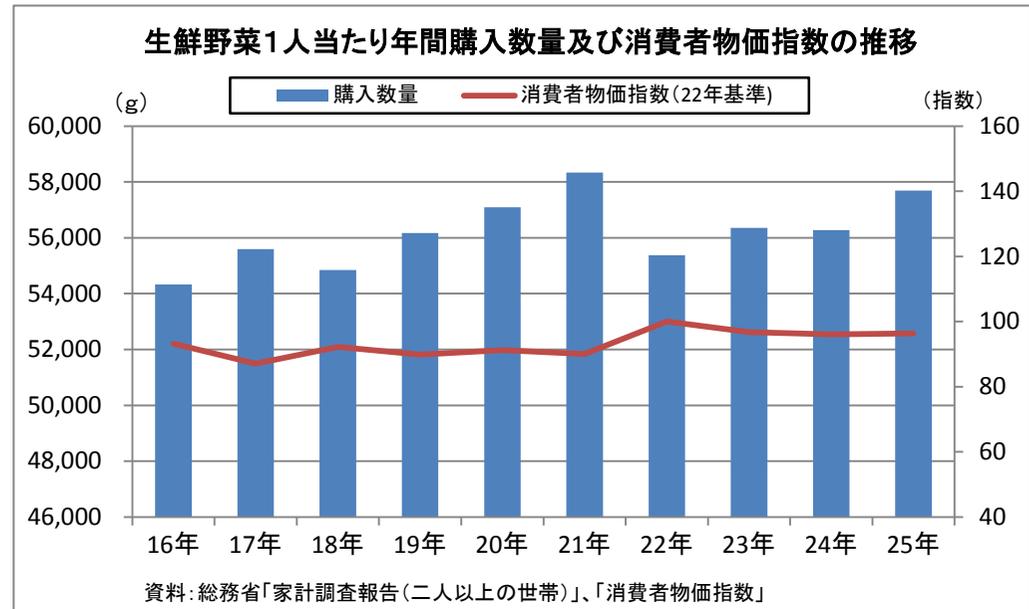




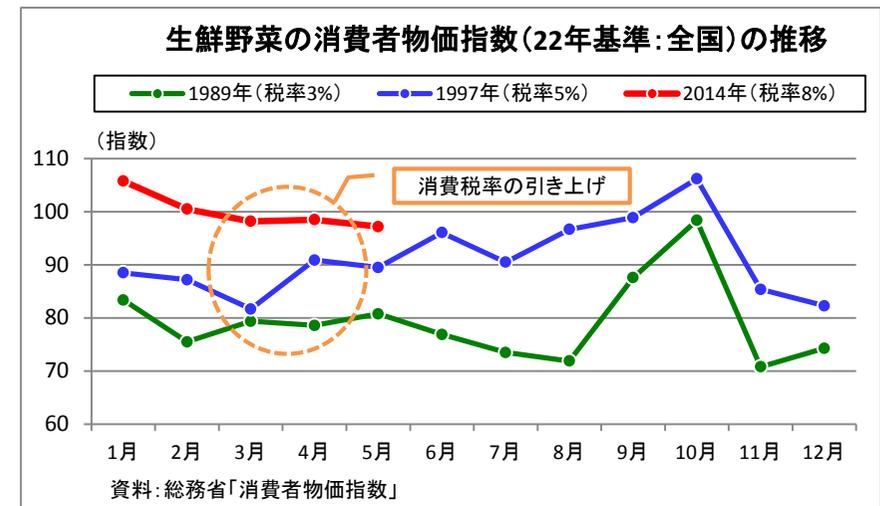
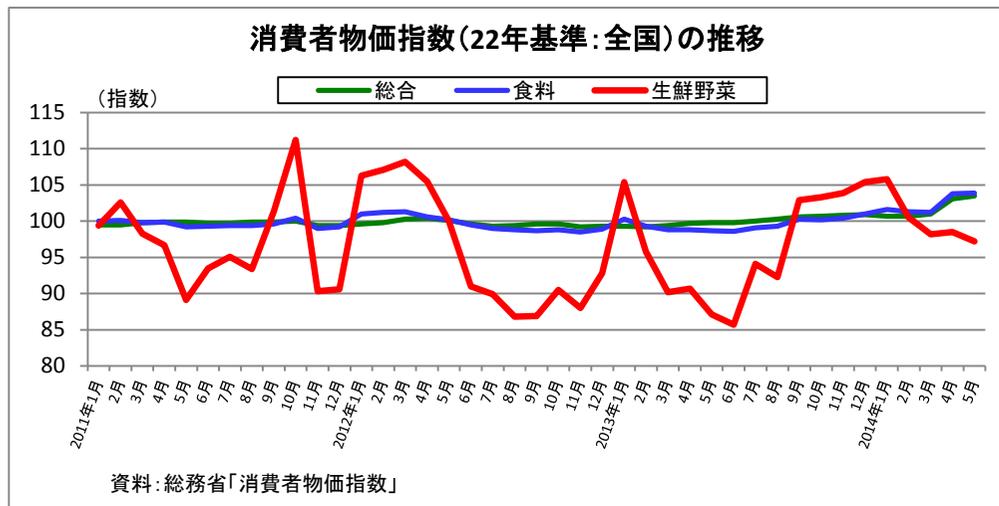


(2) 生鮮野菜の1人当たり年間購入

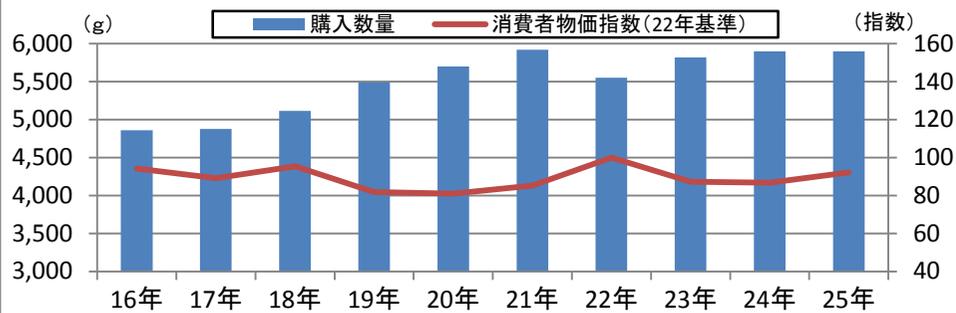
- 生鮮野菜の1人当たり年間購入数量は年によって変動するものの、消費者物価指数（小売価格）が高くなると、購入数量が減少する傾向がみられる。
- 品目別にみると、近年、キャベツ、たまねぎ、レタスは増加傾向、にんじんやはくさいは横ばい、だいこんは減少傾向がみられる。
- 消費者物価指数は、消費税率が増加した4月は、総合指数の前月比は2.1%上昇、食料指数は2.6%上昇、生鮮野菜指数は0.3%上昇となった。5月は、総合指数の前月比は0.4%上昇、食料指数は0.1%上昇、生鮮野菜指数は1.3%減少となった。



【参考】

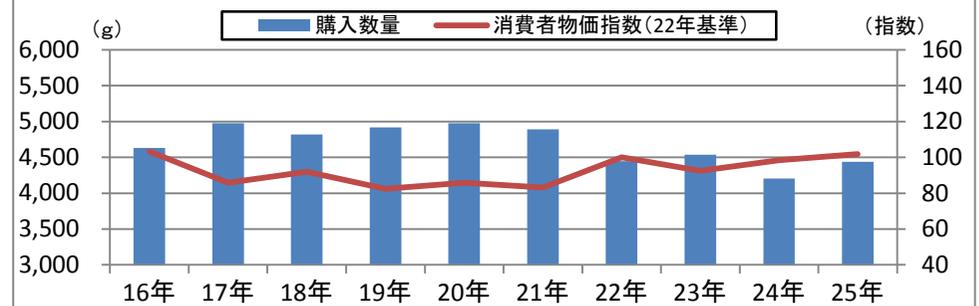


キャベツの1人当たり年間購入数量及び消費者物価指数の推移



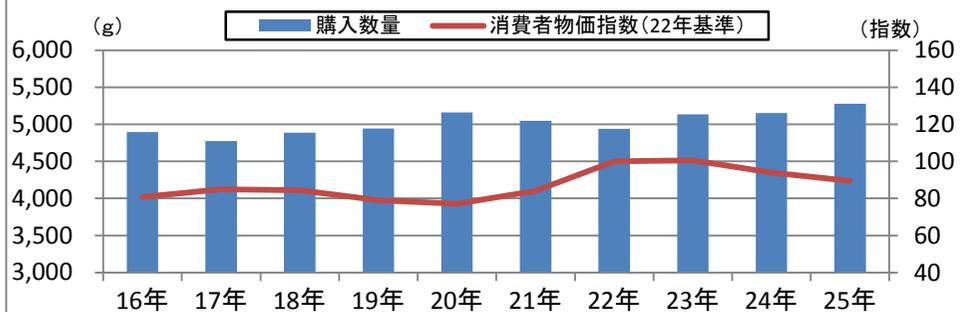
資料:総務省「家計調査報告(二人以上の世帯)」、「消費者物価指数」

だいこんの1人当たり年間購入数量及び消費者物価指数の推移



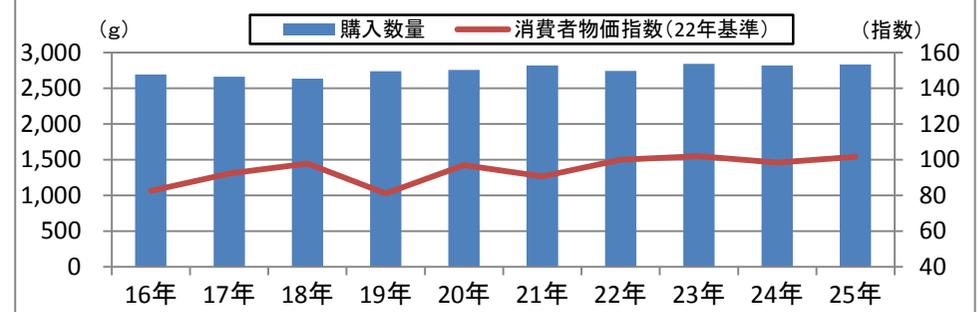
資料:総務省「家計調査報告(二人以上の世帯)」、「消費者物価指数」

たまねぎの1人当たり年間購入数量及び消費者物価指数の推移



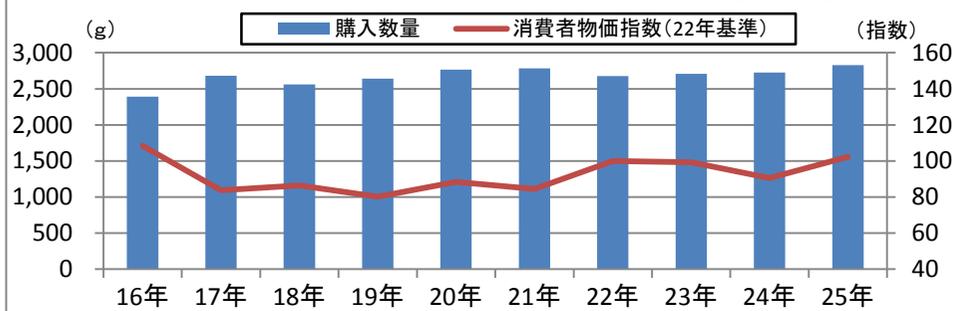
資料:総務省「家計調査報告(二人以上の世帯)」、「消費者物価指数」

にんじんの1人当たり年間購入数量及び消費者物価指数の推移



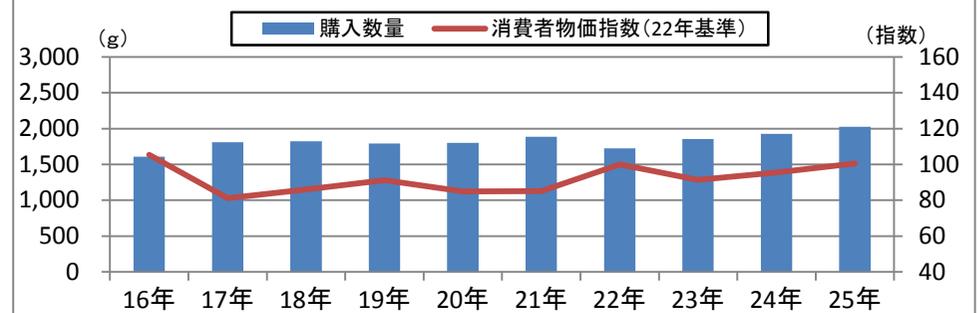
資料:総務省「家計調査報告(二人以上の世帯)」、「消費者物価指数」

はくさいの1人当たり年間購入数量及び消費者物価指数の推移



資料:総務省「家計調査報告(二人以上の世帯)」、「消費者物価指数」

レタスの1人当たり年間購入数量及び消費者物価指数の推移



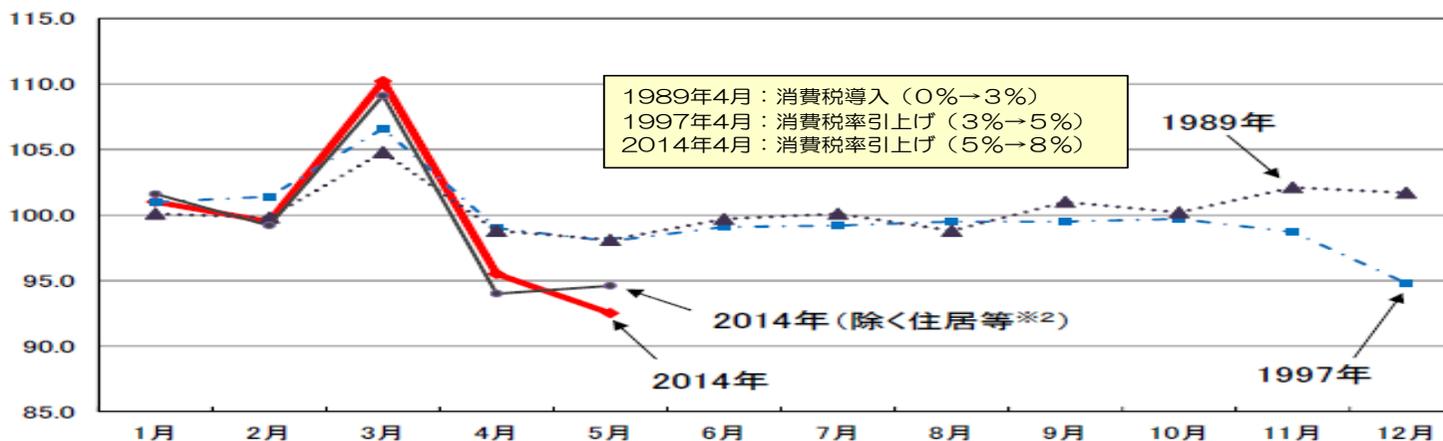
資料:総務省「家計調査報告(二人以上の世帯)」、「消費者物価指数」

【参考】消費支出の前年同月増減率（平成26年）

	3月	4月	5月	摘 要	備 考
消費支出	7.2	-4.6	-8		2か月連続の実質減少
食 料	3.4	-6.9	-2.8	〈減少〉 魚介類、穀類など	2か月連続の実質減少
住 居	12.9	10.8	-25.8	〈減少〉 設備修繕・維持、家賃地代	9か月ぶりの実質減少
光熱・水道	2	-0.6	-7.9	〈減少〉 上下水道料、ガス代など	2か月連続の実質減少
家具・家事用品	82.5	-18.7	-15.5	〈減少〉 家庭用耐久財、室内装備・装飾品など	2か月連続の実質減少
被服及び履物	12.3	-6	-4.3	〈減少〉 洋服、シャツ・セーター類など	2か月連続の実質減少
保健医療	11.1	-4.5	-10	〈減少〉 保健医療サービス、保健医療用品・器具など	2か月連続の実質減少
交通・通信	12.8	-3.6	-7.9	〈減少〉 自動車等関係費、通信など	2か月連続の実質減少
教 育	-12.8	5	-10.7	〈減少〉 授業料等、補習教育	2か月ぶりの実質減少
教養娯楽	11.6	-1.8	-3.8	〈減少〉 教養娯楽サービス、書籍・他の印刷物	2か月連続の実質減少
その他の消費支出	-	-	-		
諸経費	14.3	-14.7	-15		
財・サービス	10.4	-3.9	-8		
財(商品)	16.3	-6.9	-7.9		
耐久財	57.9	9.5	-33.2		
半耐久財	22.1	-11.8	-5.3		
非耐久財	6.9	-8.3	-5.3		
サービス	1.8	-0.2	-7.9		

注：「摘要」欄は、消費支出の実質増減率への寄与度の大きい項目を掲載。
資料：総務省「家計調査報告（二人以上の世帯）」

【参考】過去の消費税導入時の消費支出（季節調整済実質指数^{※1}）の推移



※1：各年の前年平均を100として指数化した。
※2：「住居」のほか、「自動車等購入」、「贈与金」、「仕送り金」を除いている。

資料：総務省「家計調査報告」

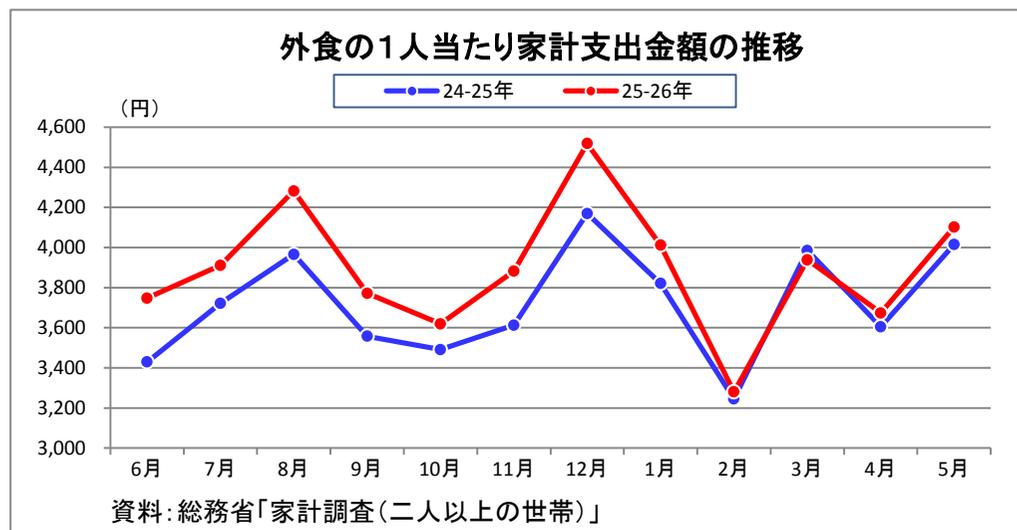
【参考】 平成26年3月以降の消費者物価指数（22年基準：東京都区部中甸）

	3月	4月		5月		6月				
		(前月比)	(前年同月比)	(前月比)	(前年同月比)	(前月比)	(前年同月比)			
総合	99.8	101.7	101.9%	102.8%	102.1	100.4%	103.1%	101.8	99.7%	102.9%
食料	99.7	102.0	102.3%	104.4%	102.2	100.2%	105.0%	101.4	99.2%	104.5%
生鮮食品	102.9	103.4	100.5%	109.3%	103.6	100.2%	112.9%	98.4	95.0%	109.3%
生鮮食品を除く食料	99.1	101.8	102.7%	103.6%	102.0	100.2%	103.8%	101.9	99.9%	103.7%
穀類	97.4	100.0	102.7%	100.4%	99.7	99.7%	100.3%	99.6	99.9%	100.3%
魚介類	104.9	107.9	102.9%	110.9%	107.9	100.0%	112.7%	108.0	100.1%	112.7%
肉類	102.8	105.7	102.8%	106.3%	106.9	101.1%	107.2%	106.5	99.6%	106.9%
乳卵類	98.9	102.5	103.6%	107.7%	101.0	98.5%	107.0%	100.8	99.8%	106.9%
野菜・海藻	96.8	97.7	100.9%	105.3%	96.3	98.6%	108.6%	92.9	96.5%	105.6%
生鮮野菜	97.5	97.5	100.0%	106.6%	95.7	98.2%	112.1%	90.7	94.8%	107.5%
果物	110.4	109.5	99.2%	110.4%	115.0	105.0%	111.4%	103.0	89.6%	104.6%
生鮮果実	111.2	110.0	98.9%	111.0%	115.9	105.4%	112.1%	103.0	88.9%	104.8%
油脂・調味料	97.0	98.9	102.0%	104.5%	98.3	99.4%	104.2%	99.5	101.2%	104.2%
菓子類	98.0	100.6	102.7%	102.2%	100.7	100.1%	103.0%	100.9	100.2%	103.5%
調理食品	99.5	102.9	103.4%	103.5%	104.4	101.5%	105.2%	104.0	99.6%	105.1%
飲料	94.4	96.4	102.1%	101.5%	96.4	100.0%	101.6%	95.7	99.3%	100.9%
酒類	92.5	96.6	104.4%	103.3%	96.2	99.6%	102.9%	95.9	99.7%	102.8%
外食	100.9	103.2	102.3%	103.2%	103.3	100.1%	102.8%	103.4	100.1%	102.9%
光熱・水道	117.6	119.3	101.4%	106.3%	124.5	104.4%	108.6%	124.8	100.2%	107.2%
家具・家事用品	88.9	91.6	103.0%	104.2%	91.5	99.9%	105.1%	91.2	99.7%	105.2%
被服及び履物	99.3	103.4	104.1%	102.0%	103.2	99.8%	101.7%	102.6	99.4%	101.1%
保健医療	97.8	99.8	102.0%	101.1%	99.7	99.9%	101.0%	99.7	100.0%	101.1%
交通・通信	101.6	103.6	102.0%	102.9%	104.0	100.4%	103.1%	103.6	99.6%	102.9%
教育	101.2	103.4	102.2%	102.8%	103.4	100.0%	102.8%	103.4	100.0%	102.8%
教養娯楽	94.1	97.9	104.0%	105.2%	97.5	99.6%	104.1%	97.7	100.2%	105.1%
諸雑費	105.4	107.8	102.3%	104.8%	107.8	100.0%	104.8%	107.8	100.0%	104.9%

資料：総務省「消費者物価指数」

(3) 外食の支出

- 外食の家計支出額は、6月から翌年5月までの1年間は、3月を除いて前年同月を上回って推移した。
- 6月～1月の間は、前年同月を約4から9%以上の割合で上回って推移していたものの、2月から5月は2%以内の幅で増減した。



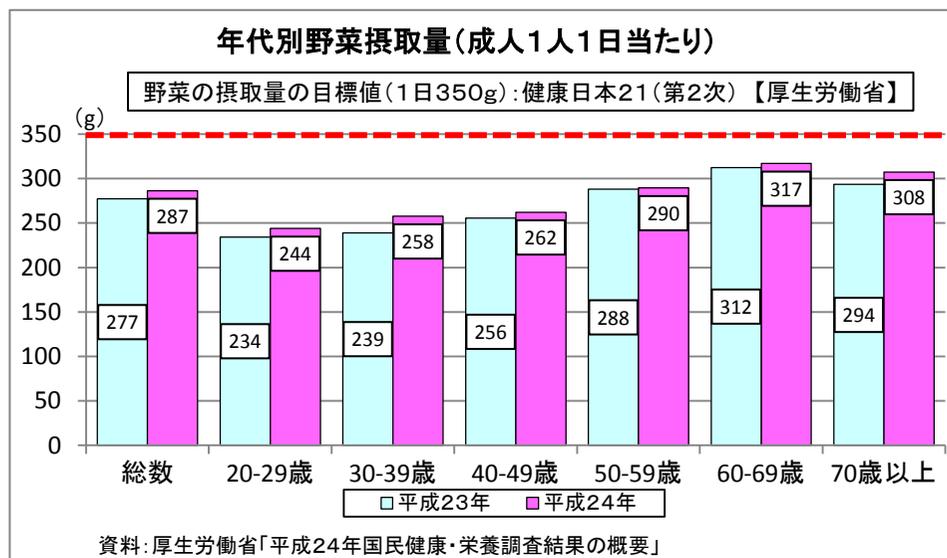
- 5月の外食の支出は、消費支出に占める割合は4.6%、前年同月比は106%となっている。
- 食料に占める割合は17.6%、前年同月比は99%となっている。

家計調査(二人以上の世帯)

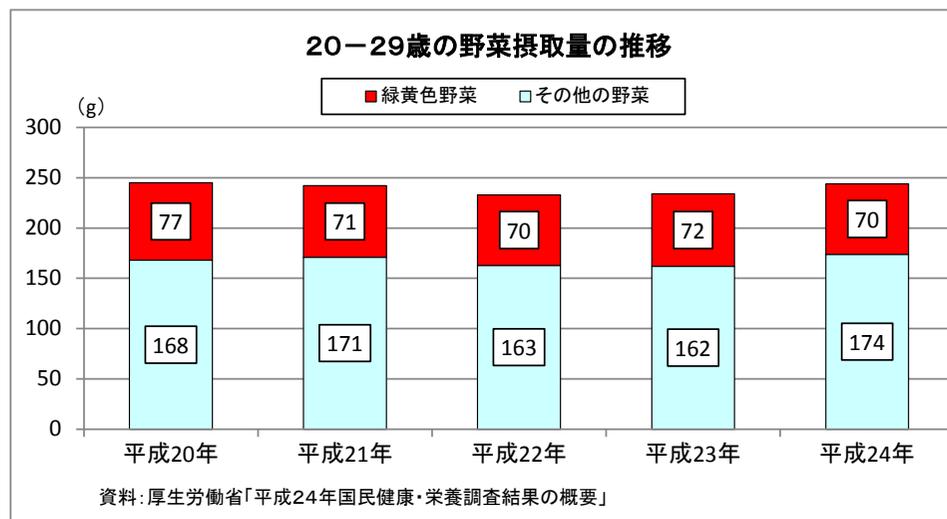
品目分類	25.5支出金額	26.5支出金額	対前年同月比
世帯人員 <①>	3.05	3.04	—
消費支出 <②>	282,366	271,411	96%
食料 <③>	69,136	70,767	102%
外食 <④>	12,246	12,468	102%
外食(1人当たり) <⑤=④/①>	4,015	4,101	102%
消費支出に占める割合(%) <⑥=④/②>	4.3	4.6	106%
食料に占める割合 <⑦=④/③>	17.7	17.6	99%

(4) 野菜の摂取量

- 平成24年の成人1人1日当たりの野菜摂取量は、前年に比べて10グラム増加して287グラム（前年比103%）となり、年齢階級別にみると各年代においても目標値の350グラムに達していない。
- 各年代で前年よりも野菜摂取量が増加しているものの、依然として20代～40代は少ない水準となっている。



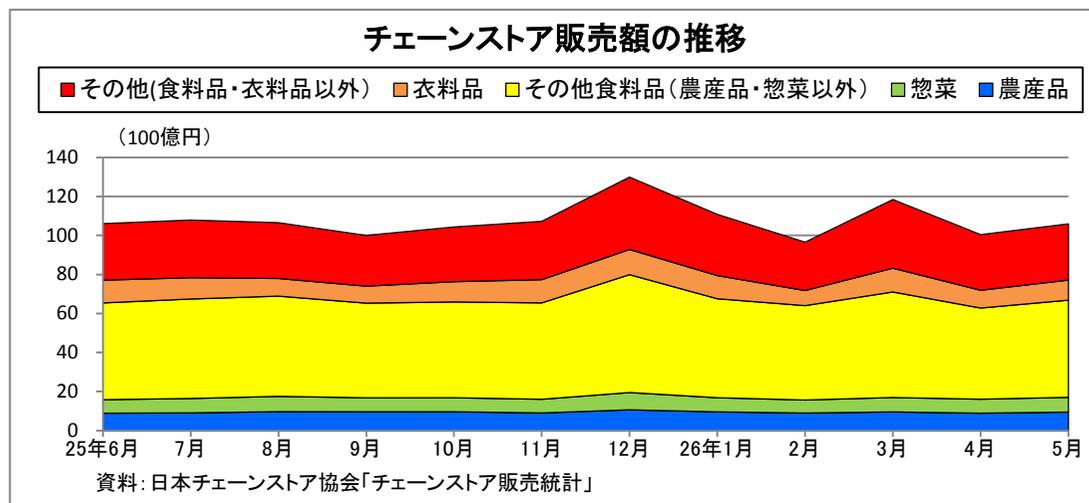
- 成人の中で20代の野菜摂取量が一番少なく、年々減少傾向となっていたが、23年以降、若干であるが増加する傾向が見られる。



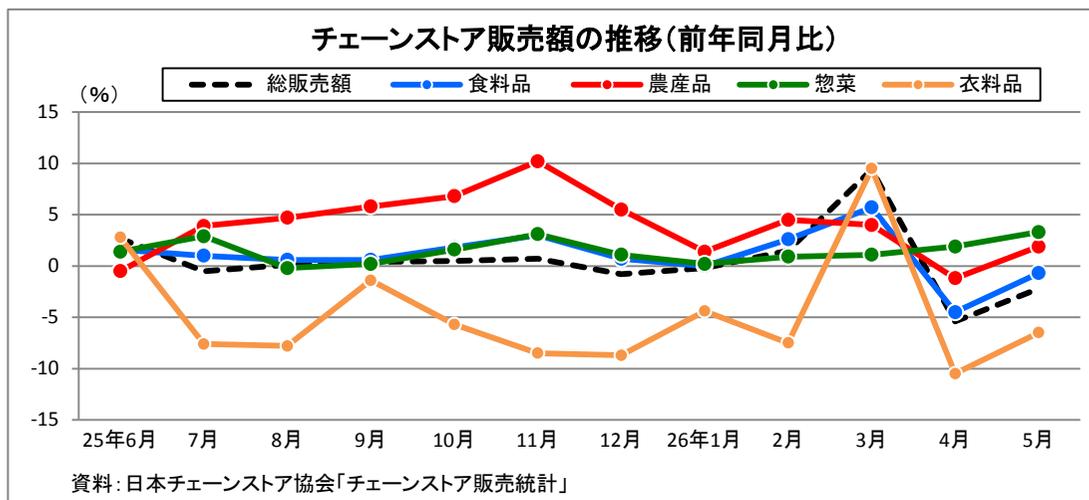
2. 小売の販売動向

(1) チェーンストア

- チェーンストアの直近1年間の総販売額の最高額は、12月の1兆2,990億円、最低額は、2月の9,655億円であった。
- 農産品の最高額は、12月の1,062億円、最低額は6月の887億円であった。
- 惣菜の最高額は12月の886億円、最低額は2月の668億円であった。
- 農産品及び惣菜は、その他食料品に比べて小さい変動で推移した。

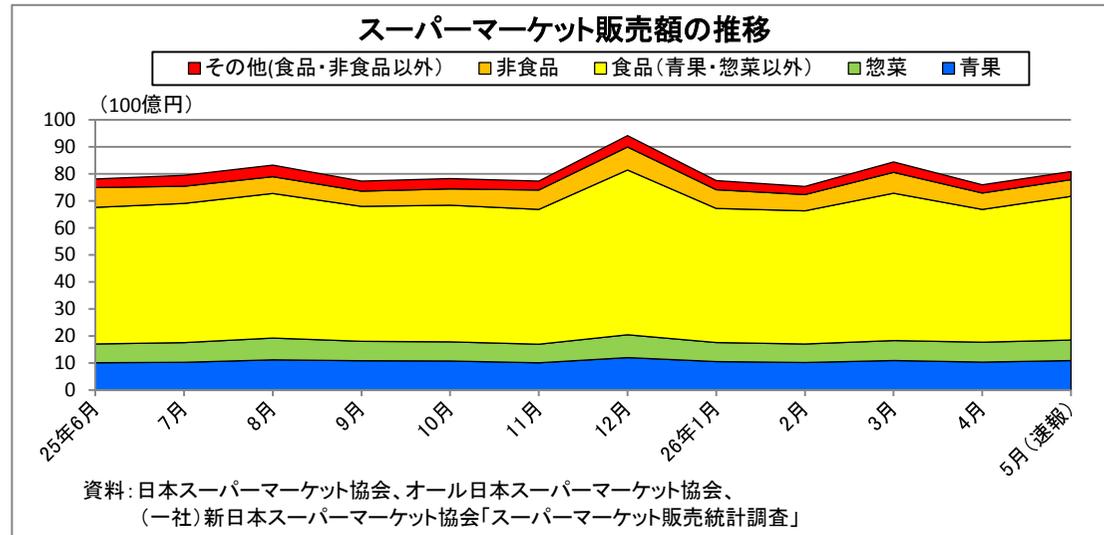


- チェーンストアの直近1年間の総販売額は、6月～11月の6か月間は7月を除いて前年を上回って推移した。3月は食料品以外に消費税増税の駆け込み需要も見られたことから前年を大幅に上回った。その影響等もあり4月は大幅に前年を下回った。
- 農産品は7月～3月までは9ヵ月連続で前年を上回って推移し、4月に前年を下回ったものの5月は前年を上回った。

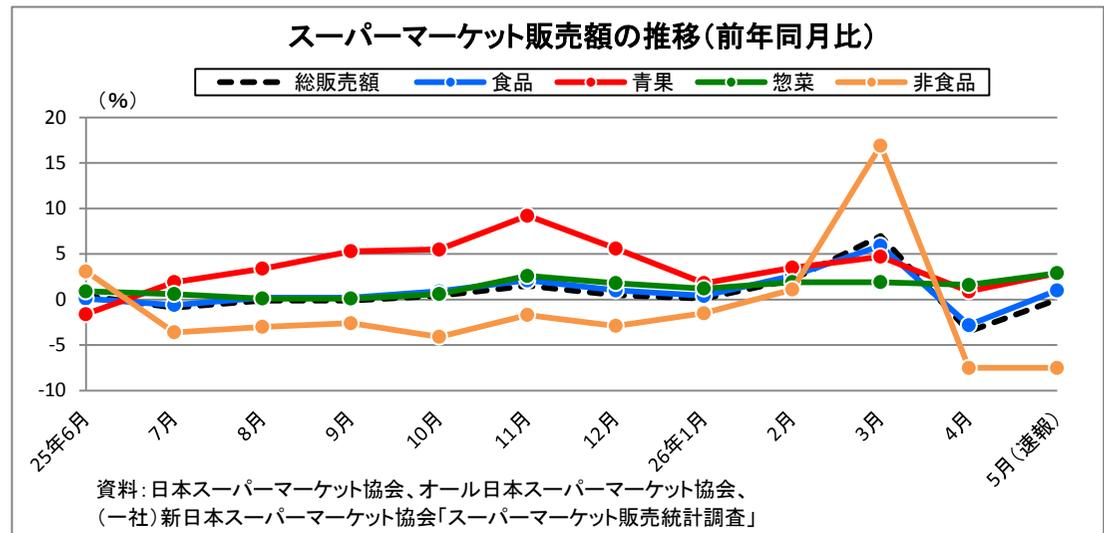


(2) スーパーマーケット

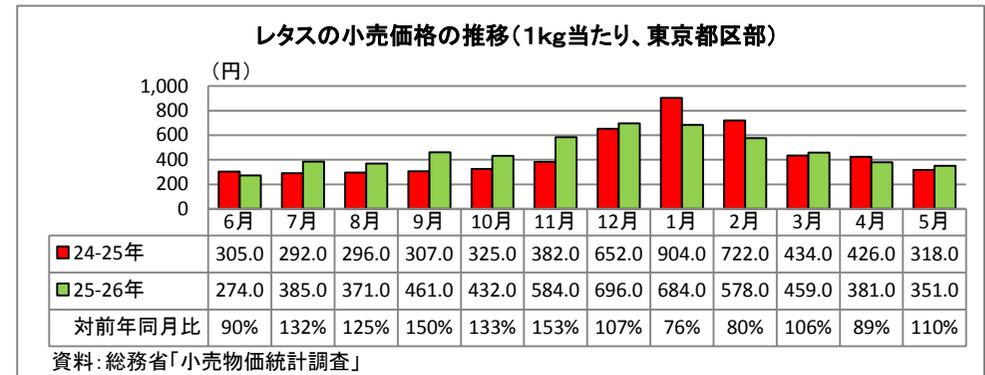
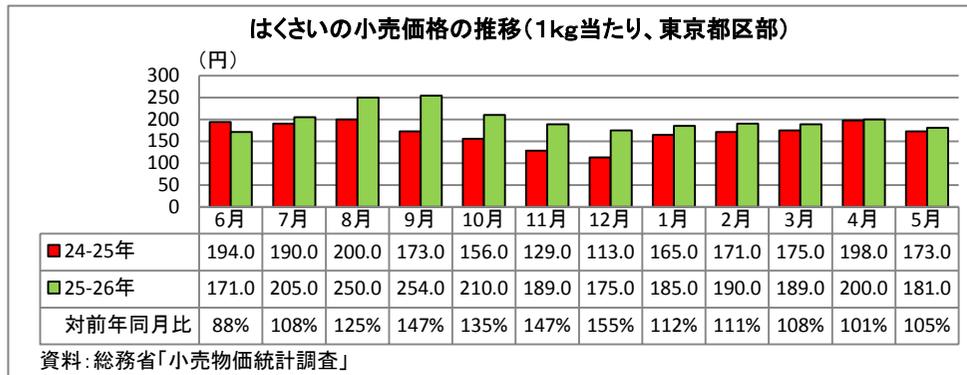
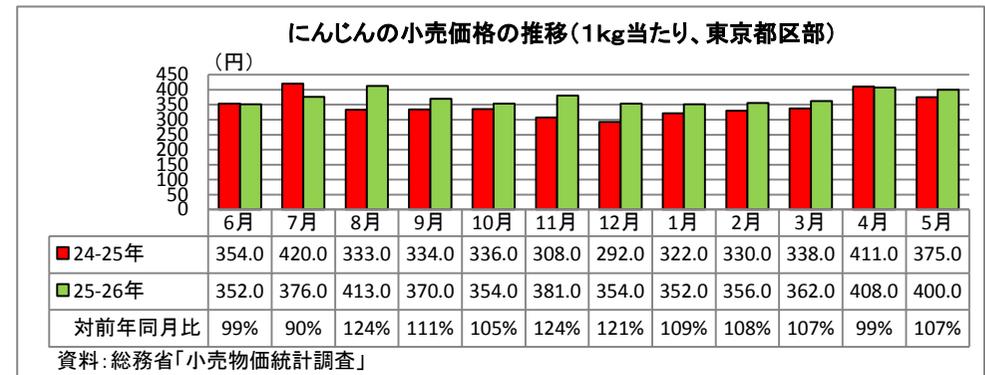
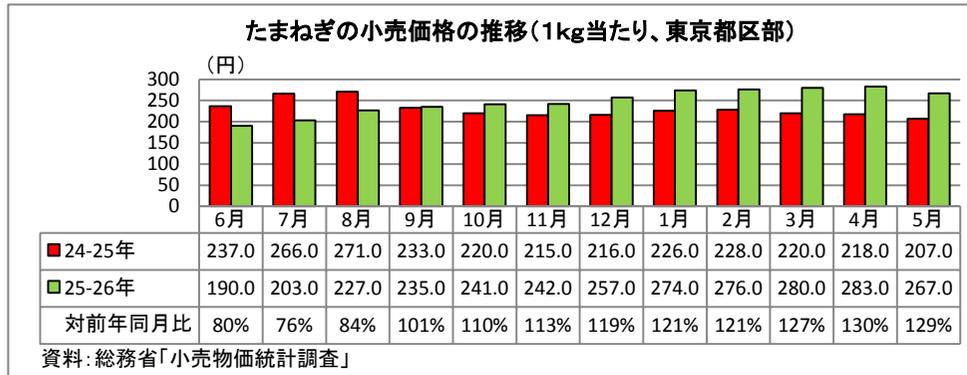
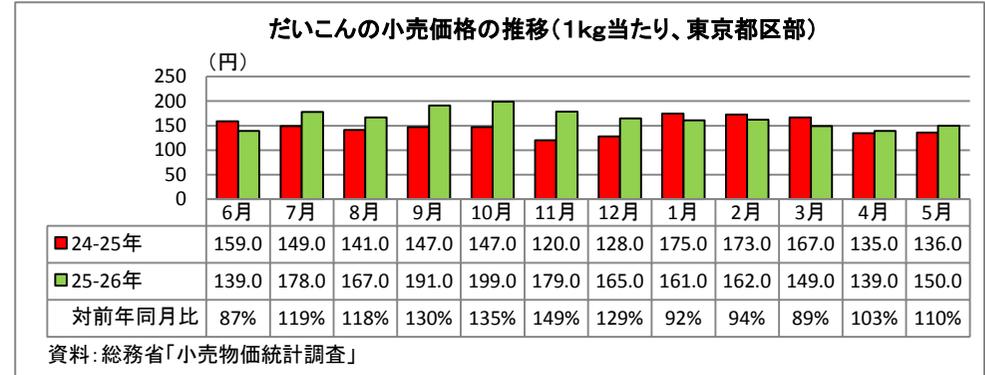
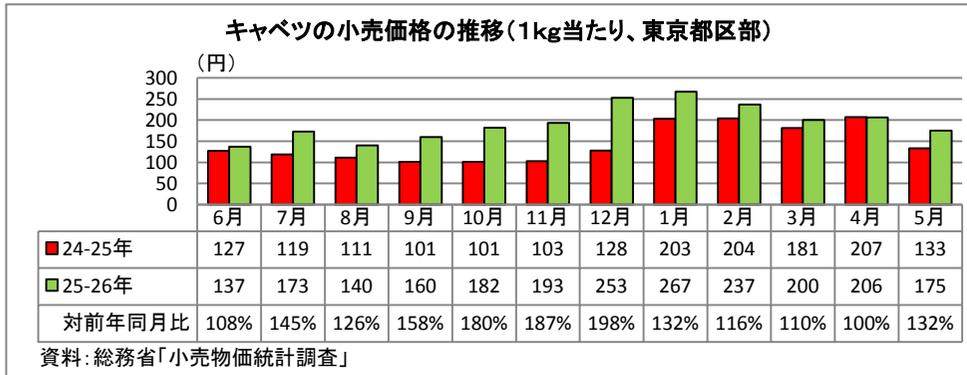
- スーパーマーケットの直近1年間の総販売額の最高額は、12月の9,418億円、最低額は、2月の7,536億円であった。
- 青果の最高額は、12月の1,200億円、最低額は11月の1,007億円であった。
- 惣菜の最高額は12月の846億円、最低額は2月の685億円であった。
- 青果及び惣菜は、その他食料品に比べて小さい変動で推移した。



- スーパーマーケットの直近1年間の総販売額は、10月～3月まで6ヶ月連続で前年を上回って推移した。3月は食品以外に消費税増税の駆け込み需要も見られたことから前年を大幅に上回った。
- 青果は7月～5月までは11ヶ月連続で前年を上回って推移した。

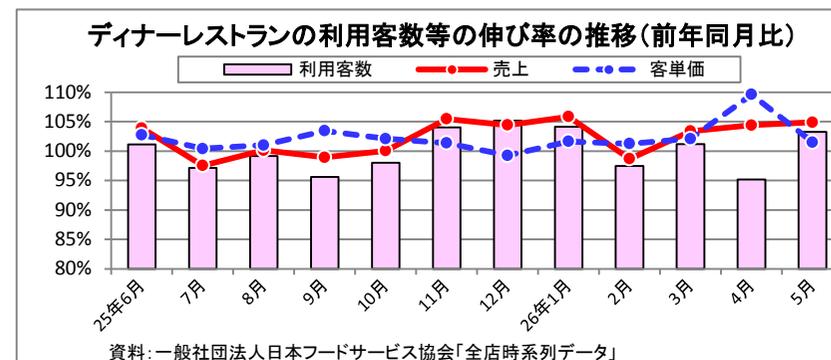
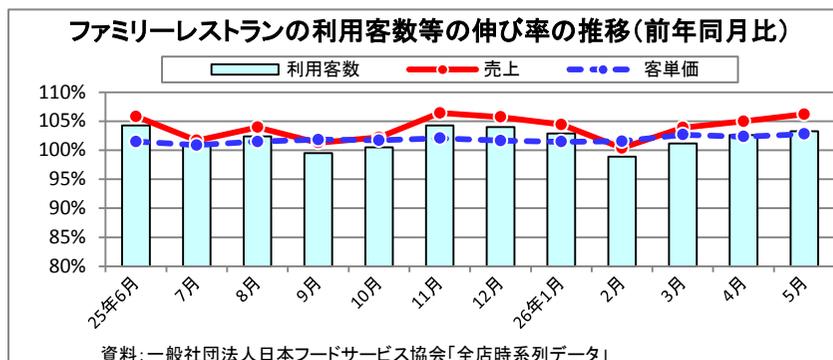
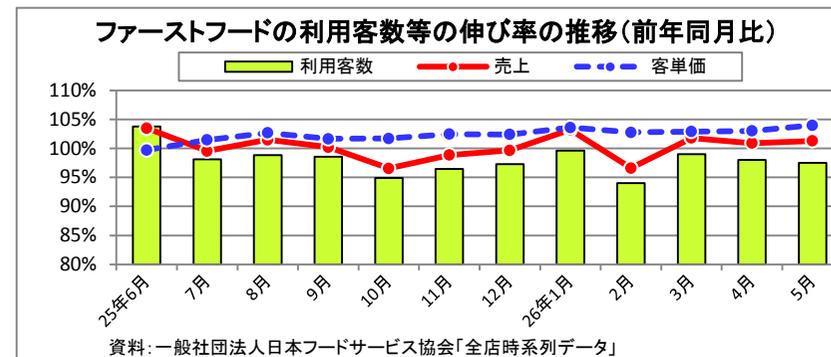
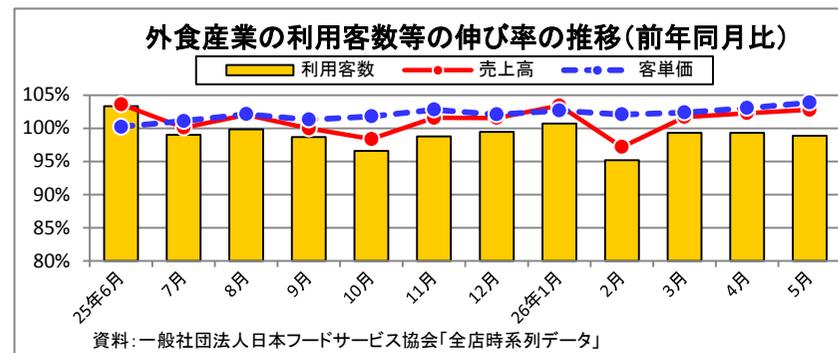


(3) 品目別小売価格



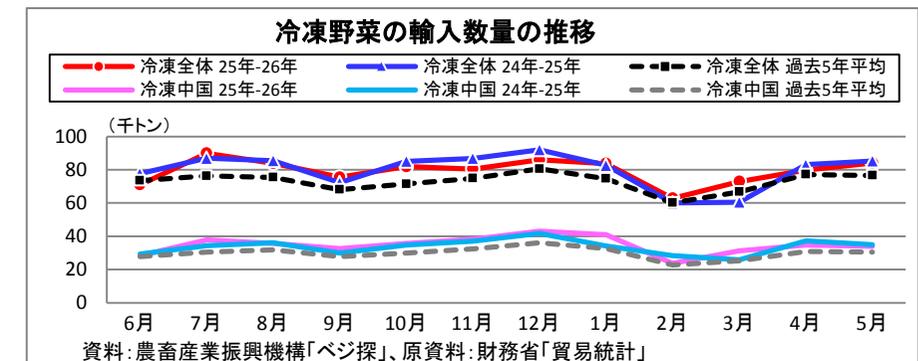
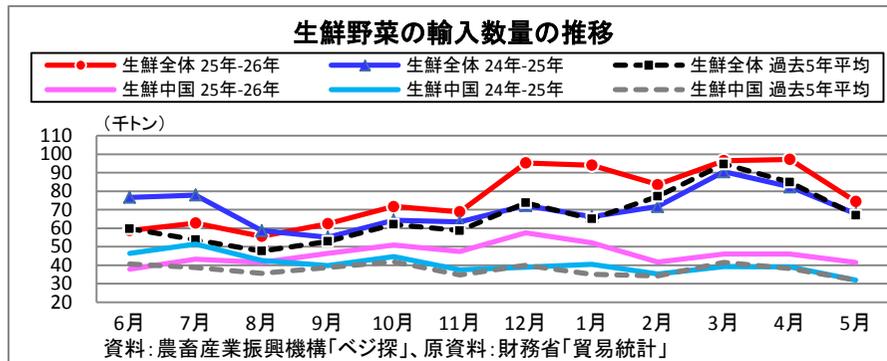
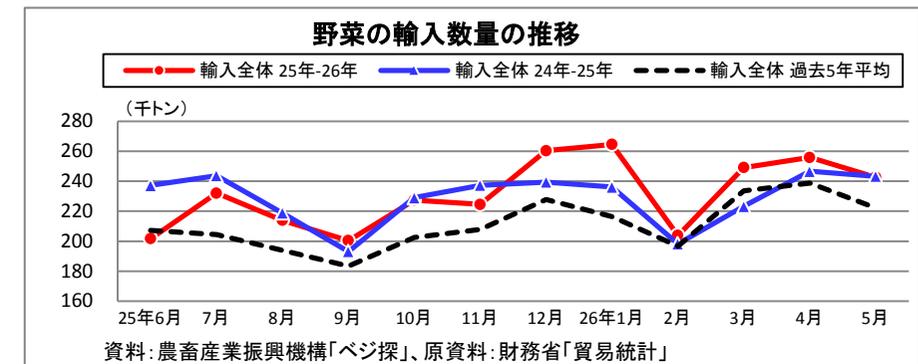
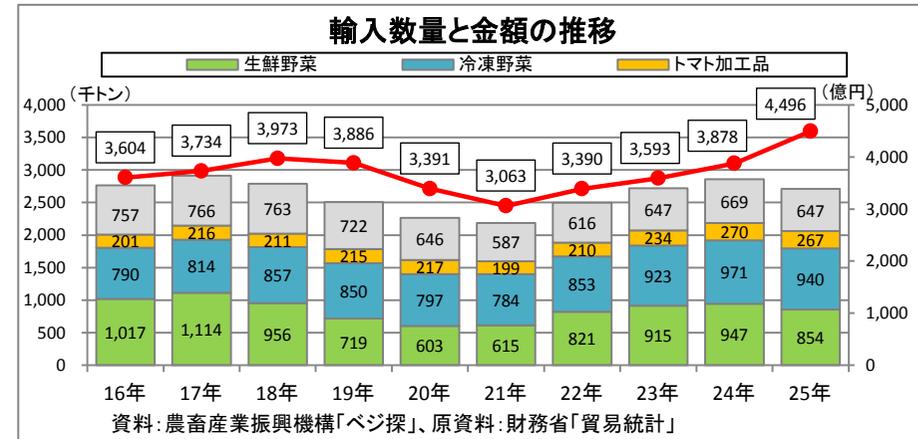
3. 外食の市場動向

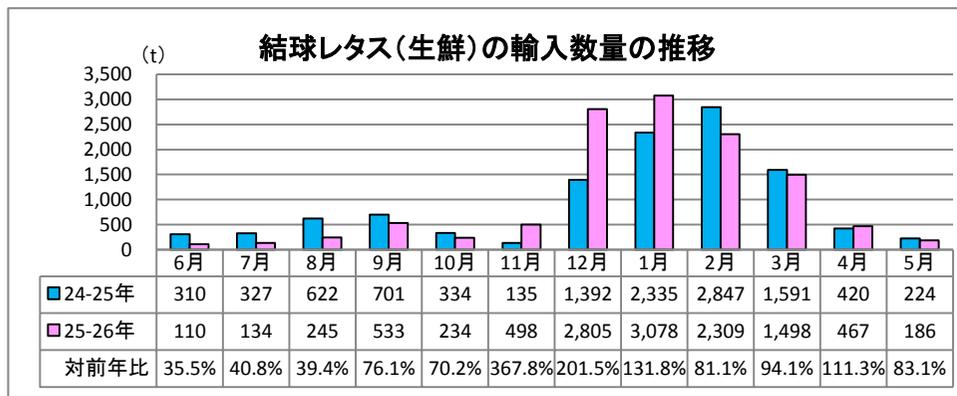
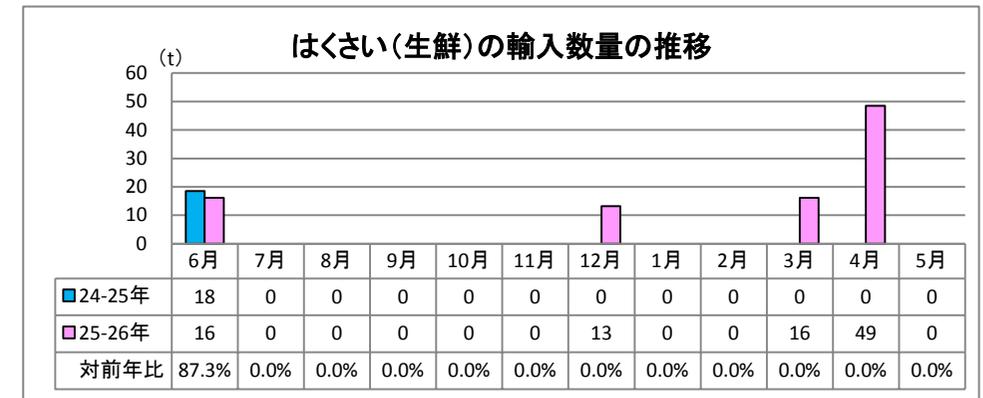
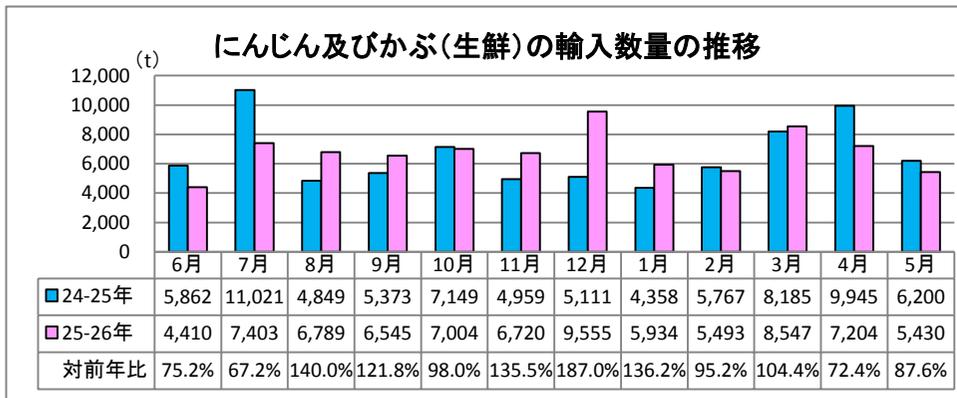
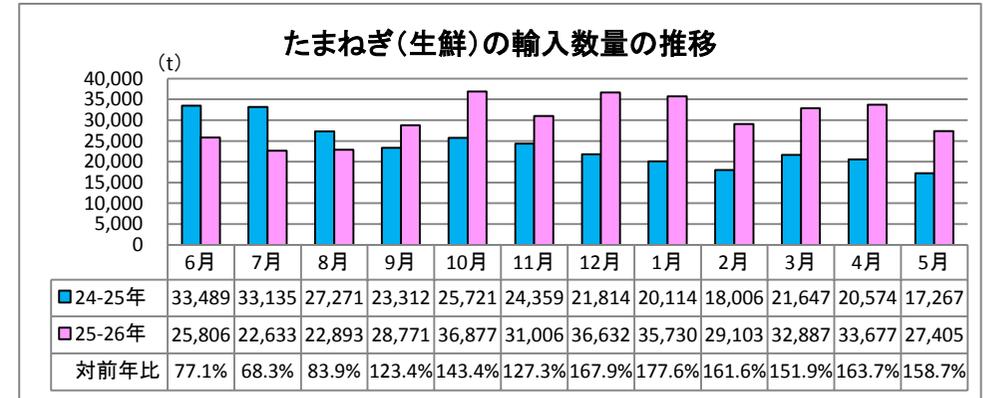
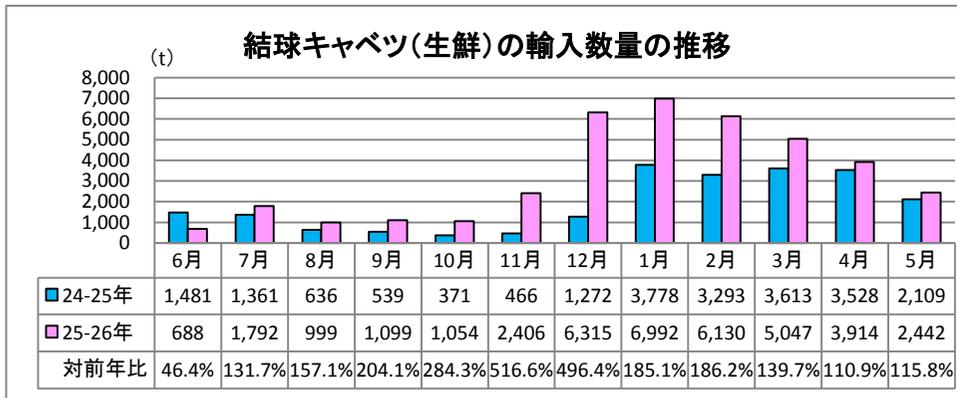
- 外食店の利用客数は、昨年6月以降、6月及び1月を除き、前年を下回った。特に2月は太平洋側を中心に2度の大雪に見舞われた影響から前年を大幅に下回った。
 - 売上高は、前年を上回る月が多かった中で、台風等の影響があった10月及び大雪の影響があった2月は、利用客数が大幅に前年を下回ったことから売上高も前年を下回った。
 - 客単価は、昨年5月以降、13か月連続で前年を上回った。
-
- 業態別では、ファーストフードは利用客数が7月以降、11か月連続で前年を下回っているものの、売上高は3月から3か月連続で前年を上回った。
 - ファミリーレストランでは利用客数が9月及び2月を除き前年を上回った。売上高は昨年5月以降、13か月連続で前年を上回った。
 - ディナーレストランでは利用客数が4月に前年を大幅に下回ったものの、売上高は3月から3か月連続で前年を上回った。
 - 各業態の客単価は、ほとんどの月で前年を上回った。なお、パブ・居酒屋のみが過去1年間の毎月で前年を下回った。



4. 輸入の動向

- 平成25年の野菜全体の輸入数量は、近年、増加傾向となっていたが、円安や上半期の国産野菜の豊作等の影響により、271万トンと前年を下回った。
- 輸入金額は約4,500億円と過去10年間で最高金額となった。
- 輸入額は、円安や輸入ウエイトの高い中国国内の生産コストの上昇により輸入単価が上昇するなどの影響が作用しているとみられる。
- 類別では、生鮮野菜及び冷凍野菜の合計が野菜輸入数量の66%(25年度)を占めている。
- 生鮮野菜は、昨年12月以降、北海道産のたまねぎが小玉傾向となったことやキャベツの国内産価格が一時、高値基調が続いたこと等から、前年及び平年を上回る輸入数量で推移している。
- 冷凍野菜は、近年では年間90万トンを超える数量が輸入され、26年1月から5月までの前年同月比で103%と増加している。





5. 夏秋野菜主要品目の主産県別生産・出荷等

○ 夏秋キャベツ（7月～10月）

順位	全 都 道 府 県	作付面積	10a当たり 収	収 穫 量	出 荷 量	出 荷 量 全国比率
		ha	kg	t	t	%
	全 国	10,100	4,600	464,100	411,100	100.0
1	群 馬 野	3,430	7,040	241,500	219,000	53.3
2	長 野	1,340	4,370	58,600	52,400	12.7
3	北 海 道	855	4,300	36,800	33,500	8.1
4	岩 手 県	727	3,660	26,600	23,600	5.7
5	茨 城 県	483	3,880	18,700	16,900	4.1
6	青 森 県	348	3,530	12,300	11,100	2.7
7	熊 本 県	502	2,160	10,800	10,300	2.5
8	大 分 県	239	2,150	5,140	4,710	1.1
9	新 潟 県	219	2,500	5,480	3,290	0.8
10	秋 田 県	276	2,260	6,240	3,250	0.8

○ たまねぎ（周年）

順位	全 都 道 府 県	作付面積	10a当たり 収	収 穫 量	出 荷 量	出 荷 量 全国比率
		ha	kg	t	t	%
	全 国	25,200	4,250	1,070,000	942,100	100.0
1	北 海 道	13,500	4,310	581,900	539,400	57.3
2	佐 賀 県	2,890	5,460	157,800	146,500	15.6
3	兵 庫 県	1,700	5,200	88,400	77,800	8.3
4	愛 知 県	635	4,910	31,200	27,700	2.9
5	長 崎 県	763	4,030	30,700	27,700	2.9
6	栃 木 県	251	5,350	13,400	11,500	1.2
7	静 岡 県	309	4,000	12,400	11,000	1.2
8	香 川 県	242	4,850	11,700	10,500	1.1
9	群 馬 県	232	4,520	10,500	8,820	0.9
10	熊 本 県	335	3,210	10,800	8,460	0.9

○ 夏はくさい（7月～9月）

順位	全 都 道 府 県	作付面積	10a当たり 収	収 穫 量	出 荷 量	出 荷 量 全国比率
		ha	kg	t	t	%
	全 国	2,550	7,110	181,300	163,800	100.0
1	長 野 県	1,780	8,570	152,500	138,500	84.6
2	北 海 道	334	4,130	13,800	12,500	7.6
3	群 馬 県	217	4,660	10,100	8,980	5.5
4	青 森 県	49	2,480	1,220	973	0.6
5	熊 本 県	24	3,380	811	775	0.5
6	岩 手 県	39	2,310	901	626	0.4
7	山 梨 県	21	3,000	630	547	0.3
8	埼 玉 県	9	3,140	295	206	0.1
9	福 島 県	12	1,190	138	120	0.1
10	宮 城 県	8	1,880	154	110	0.1

○ 夏だいこん（7月～9月）

順位	全 都 道 府 県	作付面積	10a当たり 収	収 穫 量	出 荷 量	出 荷 量 全国比率
		ha	kg	t	t	%
	全 国	6,490	3,790	246,100	223,200	100.0
1	北 海 道	2,680	4,580	122,700	115,400	51.7
2	青 森 県	1,610	3,890	62,600	56,800	25.4
3	群 馬 県	285	4,150	11,800	10,700	4.8
4	岩 手 県	327	3,020	9,880	8,310	3.7
5	岐 阜 県	156	5,190	8,100	7,380	3.3
6	長 野 県	177	2,830	5,010	4,070	1.8
7	岡 山 県	97	3,190	3,100	2,760	1.2
8	鳥 取 県	64	3,940	2,520	2,480	1.1
9	熊 本 県	203	1,380	2,800	2,370	1.1
10	栃 木 県	80	2,190	1,750	1,400	0.6

○ 秋にんじん（8月～10月）

順位	全 都 道 府 県	作付面積	10a当たり 収	収 穫 量	出 荷 量	出 荷 量 全国比率
		ha	kg	t	t	%
	全 国	5,900	3,120	183,800	166,900	100.0
1	北 海 道	4,850	3,380	163,900	152,600	91.4
2	青 森 県	361	2,740	9,890	8,960	5.4
3	新 潟 県	70	1,970	1,380	1,120	0.7
4	岩 手 県	114	1,560	1,780	901	0.5
5	熊 本 県	22	3,020	664	607	0.4
6	長 野 県	109	1,480	1,610	382	0.2
7	秋 田 県	65	1,140	744	267	0.2
8	茨 城 県	30	1,680	496	214	0.1
9	山 形 県	61	1,130	684	195	0.1
10	千 葉 県	9	2,430	228	195	0.1

○ 夏秋レタス（6月～10月）

順位	全 都 道 府 県	作付面積	10a当たり 収	収 穫 量	出 荷 量	出 荷 量 全国比率
		ha	kg	t	t	%
	全 国	9,110	3,120	284,200	273,700	100.0
1	長 野 県	5,360	3,410	182,800	178,800	65.3
2	群 馬 県	1,130	4,270	48,300	46,200	16.9
3	茨 城 県	714	2,270	16,200	15,800	5.8
4	北 海 道	491	2,420	11,900	10,900	4.0
5	岩 手 県	410	2,270	9,310	8,470	3.1
6	青 森 県	106	1,910	2,020	1,790	0.7
7	福 岡 県	107	1,580	1,690	1,590	0.6
8	栃 木 県	73	2,250	1,640	1,560	0.6
9	長 崎 県	63	2,040	1,290	1,130	0.4
10	千 葉 県	71	1,620	1,150	1,040	0.4

6. 今後の気象予報

(1) 向こう1ヶ月(6月28日～7月27日)

- 東・西日本では、前線や湿った気流の影響で、向こう1か月の降水量は平年並か多く、日照時間は平年並か少ない見込み。
- 北日本では、期間のはじめは高気圧に覆われて晴れる日が多く、気温は高い見込み。
- 沖縄・奄美では、太平洋高気圧に覆われる日が多く、向こう1か月の気温は高い見込み。期間のはじめは、かなり高くなる可能性がある。

(2) 7月～9月

【7月】

- 北日本と東日本日本海側では、前線の影響で平年に比べ曇りや雨の日が多い見込み。
- 東日本太平洋側と西日本では、期間の前半は前線の影響で平年と同様に曇りや雨の日が多く、期間の後半は太平洋高気圧に覆われ平年と同様に晴れの日が多い見込み。
- 沖縄・奄美では、太平洋高気圧に覆われ、平年と同様に晴れの日が多い見込み。

【8月】

- 北日本では、天気は数日の周期で変わりますが、気圧の谷などの影響を受けやすく平年に比べ曇りや雨の日が多い見込み。
- 東日本では、太平洋高気圧に覆われ、平年と同様に晴れの日が多い見込み。
- 西日本と沖縄・奄美では、太平洋高気圧の影響が強く、平年に比べ晴れの日が多い見込み。

【9月】

- 北・東日本と西日本日本海側では、天気は数日の周期で変わる見込み。
- 西日本太平洋側と沖縄・奄美では、平年と同様に晴れの日が多い見込み。

(3) 予想される海洋と大気の特徴

- 夏には、エルニーニョ現象が発生する可能性が高くなっている。
- 日本付近の偏西風は、ほぼ平年の位置で強い見込み。
- 太平洋高気圧の北への張り出しは、ほぼ平年程度ですが、日本の南海上では勢力は強い見込み。

出典:「全般1ヶ月予報解説資料」(平成26年6月26日気象庁地球環境・海洋部)

「全般3ヶ月予報(7～9月)解説資料」(平成26年6月25日気象庁地球環境・海洋部)

◎1ヶ月（6月28日～7月27日）予報に見る確率

	平均気温（1週目）6/28～7/4	平均気温（2週目）7/5～11	平均気温（3～4週目）7/12～25
北日本	低 20% 並 30% 高 50% 高い 見込み	低 30% 並 30% 高 40% ほぼ平年並 の見込み	低 40% 並 30% 高 30% ほぼ平年並 の見込み
東日本	低 20% 並 50% 高 30% 平年並み の見込み	低 30% 並 40% 高 30% ほぼ平年並 の見込み	低 30% 並 30% 高 40% ほぼ平年並 の見込み
西日本	低 40% 並 40% 高 20% 平年並か低い 見込み	低 30% 並 40% 高 30% ほぼ平年並 の見込み	低 30% 並 30% 高 40% ほぼ平年並 の見込み
沖縄・奄美	低 10% 並 40% 高 50% 高い 見込み	低 20% 並 30% 高 50% 高い 見込み	低 30% 並 40% 高 30% ほぼ平年並 の見込み

		平均気温（1か月）	降水量（1か月）	日照時間（1か月）
北日本	日本海側	低 30% 並 30% 高 40% ほぼ平年並 の見込み	少 30% 並 30% 多 40% ほぼ平年並 の見込み	少 40% 並 30% 多 30% ほぼ平年並 の見込み
	太平洋側	ほぼ平年並 の見込み	少 30% 並 30% 多 40% ほぼ平年並 の見込み	少 40% 並 30% 多 30% ほぼ平年並 の見込み
東日本	日本海側	低 30% 並 40% 高 30% ほぼ平年並 の見込み	少 20% 並 40% 多 40% 平年並か多い 見込み	少 40% 並 40% 多 20% 平年並か少ない 見込み
	太平洋側	ほぼ平年並 の見込み	少 20% 並 40% 多 40% 平年並か多い 見込み	少 40% 並 40% 多 20% 平年並か少ない 見込み
西日本	日本海側	低 30% 並 40% 高 30% ほぼ平年並 の見込み	少 20% 並 40% 多 40% 平年並か多い 見込み	少 40% 並 40% 多 20% 平年並か少ない 見込み
	太平洋側	ほぼ平年並 の見込み	少 20% 並 40% 多 40% 平年並か多い 見込み	少 40% 並 40% 多 20% 平年並か少ない 見込み
沖縄・奄美		低 20% 並 30% 高 50% 高い 見込み	少 30% 並 40% 多 30% ほぼ平年並 の見込み	少 30% 並 40% 多 30% ほぼ平年並 の見込み

注：「低 並 高」、「少 並 多」は、それぞれ平年との比較（以下同じ。）

出典：「全般1ヶ月予報解説資料」（平成26年6月26日気象庁地球環境・海洋部）

◎3ヶ月（7月～9月）予報に見る確率

	平均気温 7月	平均気温 8月	平均気温 9月
北日本	低 30% 並 40% 高 30% ほぼ平年並の見込み	低 30% 並 40% 高 30% ほぼ平年並の見込み	低 30% 並 40% 高 30% ほぼ平年並の見込み
東日本	低 30% 並 40% 高 30% ほぼ平年並の見込み	低 30% 並 40% 高 30% ほぼ平年並の見込み	低 30% 並 40% 高 30% ほぼ平年並の見込み
西日本	低 30% 並 40% 高 30% ほぼ平年並の見込み	低 20% 並 40% 高 40% 平年並か高い見込み	低 40% 並 40% 高 20% 平年並か低い見込み
沖縄・奄美	低 20% 並 40% 高 40% 平年並か高い見込み	低 20% 並 40% 高 40% 平年並か高い見込み	低 40% 並 40% 高 20% 平年並か低い見込み

		降水量 7月	降水量 8月	降水量 9月
北日本	日本海側	少 20% 並 40% 多 40% 平年並か多い見込み	少 20% 並 40% 多 40% 平年並か多い見込み	少 30% 並 40% 多 30% ほぼ平年並の見込み
	太平洋側	少 20% 並 40% 多 40% 平年並か多い見込み	少 20% 並 40% 多 40% 平年並か多い見込み	少 30% 並 40% 多 30% ほぼ平年並の見込み
東日本	日本海側	少 20% 並 40% 多 40% 平年並か多い見込み	少 30% 並 40% 多 30% ほぼ平年並の見込み	少 30% 並 40% 多 30% ほぼ平年並の見込み
	太平洋側	少 20% 並 40% 多 40% 平年並か多い見込み	少 30% 並 40% 多 30% ほぼ平年並の見込み	少 30% 並 40% 多 30% ほぼ平年並の見込み
西日本	日本海側	少 20% 並 40% 多 40% 平年並か多い見込み	少 40% 並 40% 多 20% 平年並か少ない見込み	少 30% 並 40% 多 30% ほぼ平年並の見込み
	太平洋側	少 20% 並 40% 多 40% 平年並か多い見込み	少 40% 並 40% 多 20% 平年並か少ない見込み	少 30% 並 40% 多 30% ほぼ平年並の見込み
沖縄・奄美		少 30% 並 40% 多 30% ほぼ平年並の見込み	少 40% 並 40% 多 20% 平年並か少ない見込み	少 30% 並 40% 多 30% ほぼ平年並の見込み

出典：「全般3ヶ月予報（7～9月）解説資料」（平成26年6月25日気象庁地球環境・海洋部）

◎予想される海洋と大気の特徴

- 夏には、エルニーニョ現象が発生する可能性が高くなっています。
- この影響で、熱帯の対流活動（積乱雲の発生）の位置が全般に平年より東へずれ、インド洋西部やインドネシア付近で対流活動が不活発となる見込みです。
- 一方、フィリピン付近では、対流活動が活発となる見込みです。
- その結果、日本付近の偏西風はほぼ平年の位置で強い見込みです。
- また、太平洋高気圧の北への張り出しはほぼ平年程度ですが、日本の南海上では勢力は強いでしょう。
- これらの特徴は夏に明瞭で、9月はフィリピン付近の対流活動は弱まり、偏西風は平年より南寄りを流れる見込みです。

